

○新屋三部 に見ゆ後

○新屋の住家の場

團爐のあゝ、新屋の火を焚く、
居る。小ぢり人のうらみ

新 実りの山道のうらみは、
耳を流すのうらみ

訪ある。若くは木枯や

荒れし軒端の年毎に落行く月の

早に新屋の影を今ゆめは

初夜をみる。○自らは

車に今も白く、
線路のうらみで、
山を分る、
それ故

屏い事と見えろ

トけぬ人、
花道

美 此所は静愛、
山の隈と谷の隈、
たづねよあけど一人

まがらめぐりあはぶるは、
よめる深山幽谷、

聴きしよ

よめる深山幽谷、

よめる深山幽谷、

よめる深山幽谷、

よめる深山幽谷、

よめる深山幽谷、

よめる深山幽谷、

よめる深山幽谷、

新

問はるる言ふゆがふをうはなふもあはれい
さる人ですらなきる林一本で何るもそとてきまむ世の中
静庵のうらもまけゆるかか君のは供ひありきりか移りゆく
角のすしとせいのあきうは難くはては末代までゆふにせ
神はあはれい
行くまのあきうを無きをそまはるは進三行
うあはてなまはと君のははのけはれははは
る候てし教の處

美

ゆは静馬の人と成り山路
ゆらけて居るはる左様茶くは
あはれいふれと御心もさ内夜り用けよ
はうきぞるりたる歌舞の水の
ゆと相成る故ゆら
うあはれい静
にい者ぞあや

新

あはれいあはれい静
あはれいふれと御心もさ内夜り用けよ
はうきぞるりたる歌舞の水の
ゆと相成る故ゆら
うあはれい静
にい者ぞあや

美

あはれいあはれい静
あはれいふれと御心もさ内夜り用けよ
はうきぞるりたる歌舞の水の
ゆと相成る故ゆら
うあはれい静
にい者ぞあや

新

あはれいあはれい静
あはれいふれと御心もさ内夜り用けよ
はうきぞるりたる歌舞の水の
ゆと相成る故ゆら
うあはれい静
にい者ぞあや

新

あはれいあはれい静
あはれいふれと御心もさ内夜り用けよ
はうきぞるりたる歌舞の水の
ゆと相成る故ゆら
うあはれい静
にい者ぞあや

新

此家の主人の御申^十載^五は
行きのくわたり旅人あるが路^二
邊の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
行く路も^二多^一く^二難^一く^二知^一ら^二ぬ^一
そのは^二舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
~~事~~舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
内へ
直^二に^一舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一

新

そのは^二舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一

義

ト兩人の意あり

新

舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一

新

舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一

義

舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一
舟^一越^二の^一難^二所^一も^二舟^一越^二の^一

100
100

知れずの...
は又一入で...

新
たそいづら...
後子...

義
豊洲...
西園屋...

義
刀録...
...

新
はあか...
...

新
如利...
...

義
それ故...
...

新
新下...
...

新 義
すのやれの何あつても業の内は
山と極積無量なる教也りて
人を知るれは物もあつてもうらでは
世の行かぬありえ
新 義
すのやれの何あつても業の内は
山と極積無量なる教也りて
人を知るれは物もあつてもうらでは
世の行かぬありえ

新 義
すのやれの何あつても業の内は
山と極積無量なる教也りて
人を知るれは物もあつてもうらでは
世の行かぬありえ
新 義
すのやれの何あつても業の内は
山と極積無量なる教也りて
人を知るれは物もあつてもうらでは
世の行かぬありえ

新 義
すのやれの何あつても業の内は
山と極積無量なる教也りて
人を知るれは物もあつてもうらでは
世の行かぬありえ
新 義
すのやれの何あつても業の内は
山と極積無量なる教也りて
人を知るれは物もあつてもうらでは
世の行かぬありえ

今こそ老りて山中へ世を捨てる
花もふく^つ詰^つく^く昔^昔し^し暮^暮り
その^{その}め^めど^ど ~~い~~ ~~り~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~し~~ ~~決~~ ~~して~~
保^保家の^のま^まる^る意^意は^は志^志即^即断^断り^りて
早^早り^りま^ませ^せあ^あぢ^ぢや

新 左様か

新 陰^{いん}虚^{きょ}言^{げん}申^{まう}す^すや

新 今^{いま}は^は何^{なに}も^もか^か包^かむ^む心^{こころ}を^を以^{もつ}て^て方^{かた}

新 今^{いま}の^の世^よの^の如^{ごと}く^く判^{はん}ら^らる^る事^{こと}は^は公^{こう}

新 え^ええ^ええ^ええ^え

新 え^えづ^づ物^{もの}の^の心^{こころ}は^は正^{ただ}し^しな^なら^らぬ^ぬ

新 ト^とは^はい^いふ^ふより^{より}は^はい^いふ^ふこと^{こと}は^はな^なら^らず^ず

新 今^{いま}の^の世^よの^の如^{ごと}く^く判^{はん}ら^らる^る事^{こと}は^は公^{こう}無^む禮^{れい}

新 い^いや^や昔^{むかし}は^はい^いふ^ふ新^{あらた}ま^まら^らぬ^ぬや^や

新 今^{いま}の^の世^よの^の如^{ごと}く^く判^{はん}ら^らる^る事^{こと}は^は公^{こう}無^む禮^{れい}

新 今^{いま}の^の世^よの^の如^{ごと}く^く判^{はん}ら^らる^る事^{こと}は^は公^{こう}無^む禮^{れい}

新 今^{いま}の^の世^よの^の如^{ごと}く^く判^{はん}ら^らる^る事^{こと}は^は公^{こう}無^む禮^{れい}

辨

物有幼め難整とあるのより

政めか、此と、~~ま~~ま事~~の~~田の徳實

此のまのま事、~~の~~徳の徳

美

つくってあることと人知れず

山出路うら入りて暮れを

おそはしぬがけある

たゞ~~文~~道をも~~留~~めて~~も~~ま~~事~~の~~徳~~

たうら~~の~~中しつむ

はは~~つ~~貴~~そ~~て~~徳~~生りする

辨美新

トけ所へ~~た~~ま~~事~~の~~徳~~

ら~~の~~と~~ま~~の~~徳~~

い

智

物出断あるもの~~徳~~と云

おの~~徳~~の~~徳~~の~~徳~~の~~徳~~の~~徳~~

その~~徳~~の~~徳~~の~~徳~~の~~徳~~の~~徳~~

うら~~の~~物~~の~~徳~~の~~徳~~の~~徳~~の~~徳~~の~~徳

辨

事~~の~~徳~~の~~徳~~の~~徳~~の~~徳~~の~~徳

新 義 義

執事

内子一人の産々ありける事と其の
より推し知る事何れも

知れぬ物よりせん事よ

その事とのすき問より歌居る
益々不ふ候

は今迄のその候
仔細をすも

知らず言はれども其の程も
義理も事柄も

は其の候
かたし

由平氏なる事
其の人の重なる事ありつる事と

此れを引省へし
其の事あり

新 義 義

新 義 義

新 義 義

新 新 新

問者と言ふは、
それより違ひたる
い子能く事なる、
女何くも其容を
下は此等よりま

新 新 新

うぬ隠れて
いやく法して
それよりキレ
白扶ぬせ

新 新 新

馬屋の
ぬ()
と

新 新 新

申し
早く申

新 新 新

そつ
つ

ト
様とす
入ぬる

新

真子が歸りし
上りては

この上ねをお連れ候なり

書

薄々外のこと 徳ききき しがゆきやう

道の原けのちねふれ 上のききゆ
者もぬすは けりとのぬきり 21
バリス ~~キ~~ 世をいとお連れ
あやめて ぬきり せよ

和

此所よりちかふりよ申付け ぬきて
ちかふりのなるも

新

あつち申すよ ちかふりよ

新

あつち申すよ ちかふりよ

美

美高尾 美言屋と 呼ばれする
美言屋とは 小氣屋 好しめが

新三郎の 新を 三郎と 名乗

べし 美高尾の 一と あり 候

の 考は 此は 伊豆 小氣屋 三郎 候
考と 候 伊豆 小氣屋 三郎 候

新

あり 候 伊豆 小氣屋 三郎 候

新

あり 候 伊豆 小氣屋 三郎 候

Handwritten notes on a separate piece of paper, partially visible at the top right corner.

如

計ふめは、けしむの、
すしを、
ついで、
ありか

結

今度の、
ありか

三新

あら、
引あげ、
抄、
抄、
抄

三

三、
抄、
の、
は、
の、
所、
年、
70

美

そのまゝしてはさまりしつゝ

一刻も^宗惜しむるべし

新

軍勢を握りて一撃を待たむ

三

攻乃る平定に降ゆると手扱は

新

功名を争ふは待たぬ

三

いざや^{出陣を}出陣す

三

故^か仕りさむ

せり